

2011/12/9

柏の景気情報（平成23年11月分）

柏 商 工 会 議 所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18
TEL : 04-7162-3305
FAX : 04-7162-3323
URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>
E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報（平成23年11月分）

○ 調査期間 : 平成23年11月24日 ~ 11月29日

○ 調査対象 : 柏市内171事業所及び組合にヒアリング

＜産業別回収状況＞

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	171	104	60.8%
建設	47	26	55.3%
製造	36	23	63.9%
卸・小売	49	36	73.5%
サービス	39	19	48.7%

○ 調査方法と調査表 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック(記述式)

$$DI値 = 1 \text{ 増加他の回答割合} - 3 \text{ 減少他の回答割合}$$

※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【平成23年11月の調査結果のポイント】

◀ 業況DIは上下を繰り返し不安定 先行き不透明感を表す ▶

○11月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲30.7(前月水準▲25.0)となり、マイナス幅が▲5.7ポイント拡大した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、建設業▲7.6(同▲10.7)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲44.4(同▲34.2)、サービス業▲26.3(同▲19.0)、製造業▲39.1(同▲32.0)である。

【建設業】からは、「住宅エコポイントの復活を機に断熱リフォームの提案強化をすすめます」(一般土木建築工事業)、「マスコミで最近頻繁に取り上げられている原発事故関連で、放射能の除染関係の依頼が増えてきている。今後、どのように対応していくか関係各所と協議中」(塗装工事業)、「震災、ホットスポットの影響による住宅建設の件数減少」(ガス業)などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「欧州財政金融の悪化、米国の景気減退、原油高等のリスクにより世界的不景気の情報が多く、改めて来年の事業計画は危機意識の上に立てる必要性を強く感じています」(金属素形材製品製造業)、「国内での受注はかなり厳しい状況である。海外進出に取り組む方向」(電子部品・デバイス製造業)、「景気が改善しない。顕著な変化は見えてこない」(その他の機械・同部品製造業)などのコメントがあった。

【卸小売業】からは、「秋物衣料が不振。冬物も出足が不調だが、PB商品で機能で魅力を打ち出している商品は好調」(その他の各種商品小売業)、「11月は去年並みとはいかず風評被害はまだ続いているようです。寒くなり外に出る事も少なくなる。肉の単価は平年並みですが多少足りなくなる部位も少しずつ出てきているようですが、これからの忘年会シーズンに期待します」(農畜産物・水産物卸売業)、「昨今の青果物卸の取り引き状態は原発事故の影響は大きいと思われませんがホットスポット以外にも消費者の食に対する変化や、景気低迷もあり、何が原因で減少しているとは言えない。いまだ原発の収束が無い限り風評被害は続きますが食べる事で安心安全の証拠と報道していき取引の活性化にしていきたい。現在の取引は野菜の主要品目で半値以下が多く、果実ではリンゴが高値で全体的に減少しています」(食料・飲料卸売業)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「スタッフ採用をかけても、反響が薄く、なかなか決まらない状況。忙しい年末に向け、人員確保と教育期間がままならない。レストランや宴会等、個人消費が増えている傾向にある」(ホテル)、「この年末年始は海外旅行は円高の影響もあって前年同期比10%増ほど。国内旅行も東北を除く全方面で前年を超えるまでになってきた。しかし今後の景況感が法人旅行需要にどう影響してくるかは未知数」(旅行業)、「放射能の風評被害が出ています。若年者の住宅購入意欲が低くなっており、特に顕著です」(不動産管理業)などの声が寄せられた。

◎先行き不透明

各業種から、「売上は多少伸びているがヨーロッパの経済不安、円高による国内製造業の空洞化がささやかれ先行きが不透明である」(一般産業用機械・装置製造業)、「欧米の財政不安、タイの水害、円高の継続等がかかわり、先行きの不透明感が増しているため、売上高への影響を懸念する」(ガラス・同製品製造業)、「材料価格は下がってきたが仕事の見通しが無い」(建築用・建設用金属製品製造業)、「依然売上は低迷を続けクリスマス需要もどうなるか不透明な状況です」(菓子・パン小売業)、「1年以内にTX沿線区画で事業の計画がありますが先行き不透明な部分もあるので臨機応変に事業投資を心がけていきたい」(不動産賃貸・管理業)などのコメントが寄せられた。

◎売上減少

各業種から、「売上高は減少し下請けに出さず自社で施工することを第一に考えて受注するがそろそろ限界かも」(土木工事業)、「夏以降に順調に伸びてきた売上も11月はなぜか急降下し、毎週金曜に休業実施するまでに受注が落ち込んでいる。要因は簡単には特定できないが、震災と円高による生産の海外への移管が大きなものであることは間違いないだろう」(その他の金属製品製造業)、「婦人服業界ではハイグレード品が若干の伸びがみられるが客数の落ち込みが激しい。そのため、売上高の落ち込みとなっている。カジュアル系のコートはここ数年売れていたため、頭打ちの状況」(婦人・子供服小売業)、「依然売上は低迷を続けクリスマス需要もどうなるか不透明な状況です」(菓子・パン小売業)などのコメントが寄せられた。

◎原材料値上がり

各業種から、「年末に向かっての明るい話題が無い。新築改修ともに物件が少なく低価格の工事でしのぐ。原材料の値上がりがあり採算は苦しい」(電気工事業)、「取引先も採算ベースで利益減少となっているようで単価を下げるよう要望されているが材料は高騰している。当然同業者は採算が合わず売上減少も仕方がないことと取引を止める業者も出ている。その結果倒産となった同業者もいる」(その他の職別工事業)、「昨対比で11月は売り上げアップしているが、12月、1月の見通しは良くない。材料費高騰の影響で利益圧迫している」(紙製容器製造業)などのコメントが寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
6月	▲33.3	▲26.4	▲30.7	▲60.5	±0.0
7月	▲28.1	▲20.6	▲24.0	▲43.2	▲15.7
8月	▲35.5	▲23.3	▲37.0	▲54.0	▲20.8
9月	▲36.1	▲16.6	▲60.8	▲45.4	▲22.7
10月	▲25.0	▲10.7	▲32.0	▲34.2	▲19.0
11月	▲30.7	▲7.6	▲39.1	▲44.4	▲26.3
見通し	▲20.1	▲7.6	▲17.3	▲33.3	▲15.7

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【平成23年11月の業況についての状況】

○ 11月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲30.7(前月水準▲25.0)となり、マイナス幅が▲5.7ポイント拡大した。

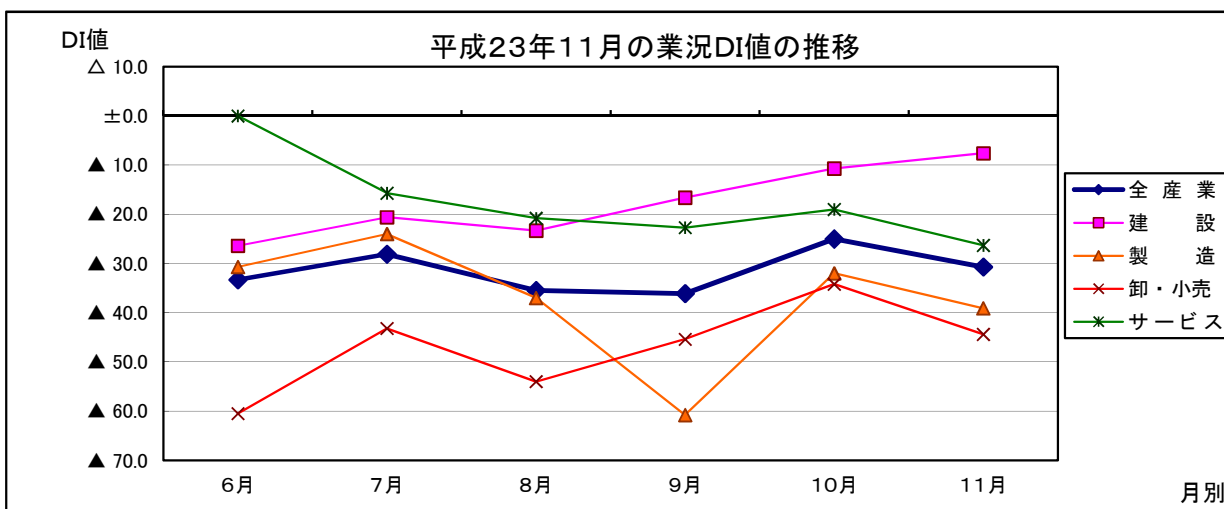
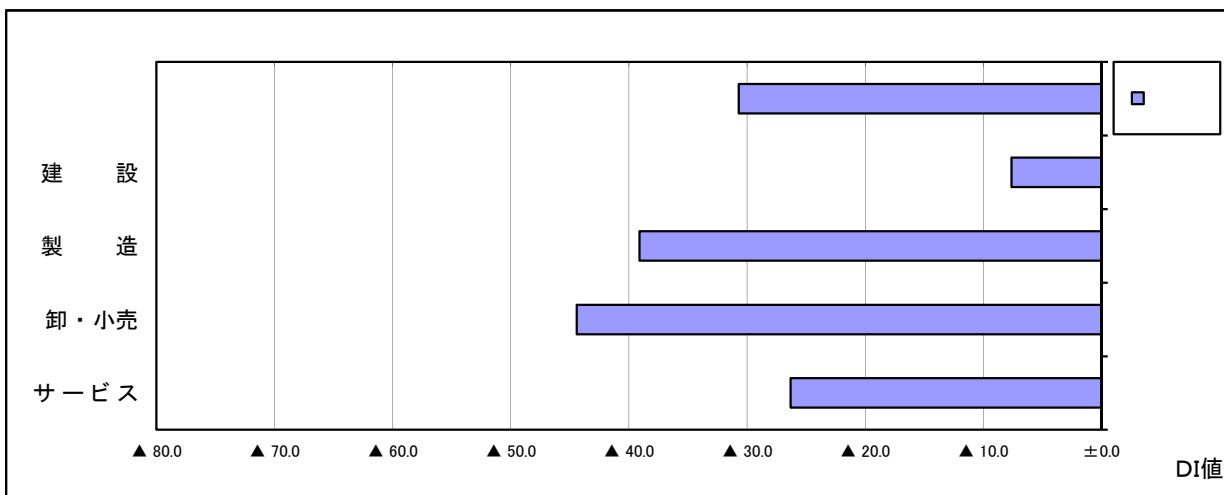
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、建設業▲7.6(同▲10.7)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲44.4(同▲34.2)、サービス業▲26.3(同▲19.0)、製造業▲39.1(同▲32.0)である。

○ 向こう3ヶ月(12月から2月)の先行き見通しについては、全産業では、▲20.1(前月水準▲19.6)となり、マイナス幅が▲0.5ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲15.7(同▲38.0)、製造業▲17.3(同▲20.0)である。特に、サービス業はマイナス幅が22.3ポイントと大幅に縮小する見通しである。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲33.3(同▲23.6)、建設業▲7.6(同±0.0)である。

平成23年11月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成23年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12月~2月(11月~1月)
全産業	▲33.3	▲28.1	▲35.5	▲36.1	▲25.0	▲30.7	▲20.1(▲19.6)
建設	▲26.4	▲20.6	▲23.3	▲16.6	▲10.7	▲7.6	▲7.6(±0.0)
製造	▲30.7	▲24.0	▲37.0	▲60.8	▲32.0	▲39.1	▲17.3(▲20.0)
卸・小売	▲60.5	▲43.2	▲54.0	▲45.4	▲34.2	▲44.4	▲33.3(▲23.6)
サービス	±0.0	▲15.7	▲20.8	▲22.7	▲19.0	▲26.3	▲15.7(▲38.0)



【平成23年11月の売上についての状況】

○ 11月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲28.8(前月水準▲16.0)となり、マイナス幅が▲12.8ポイント拡大した。

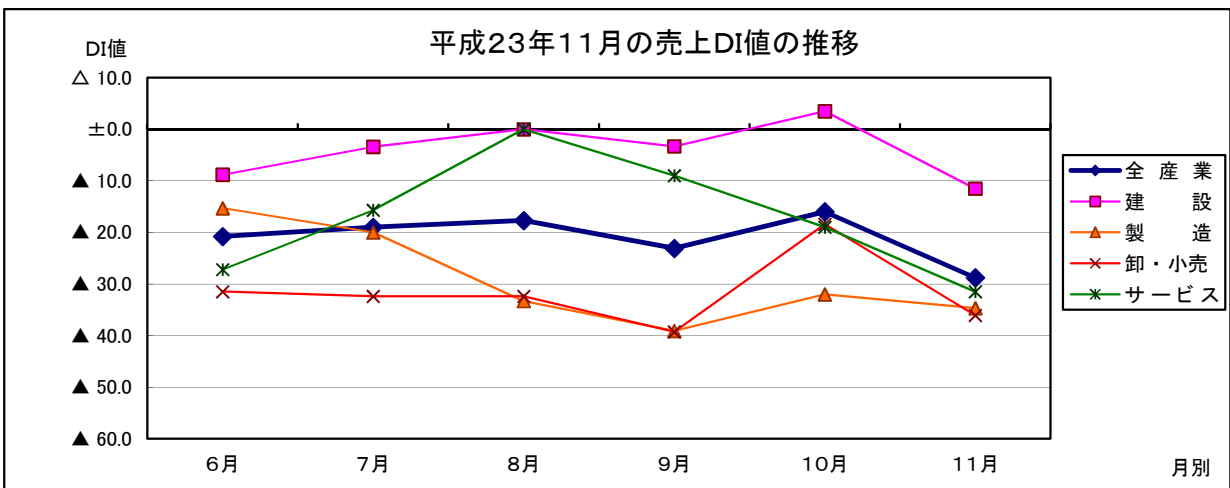
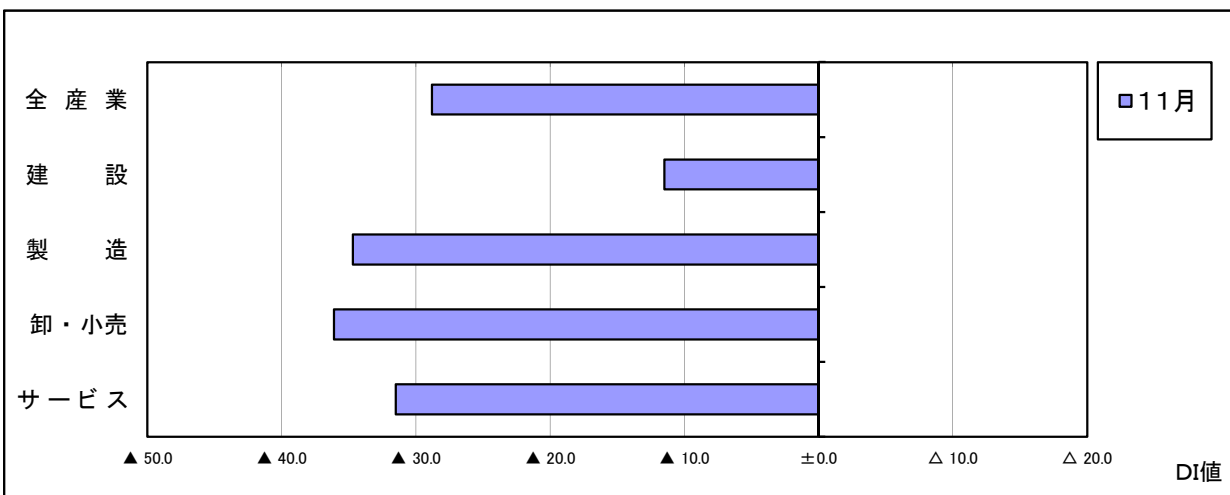
業種別では、前月水準と比べて、プラスからマイナスに転じた業種は、建設業▲11.5(同3.5)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲36.1(同▲18.4)、サービス業▲31.5(同▲19.0)、製造業▲34.7(同▲32.0)である。

○ 向こう3ヶ月(12月から2月)の先行き見通しについては、全産業では、▲17.3(前月水準▲9.8)となり、マイナス幅が▲0.5ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業▲15.7(同▲19.0)である。変らない見通しの業種は、建設業±0.0(同±0.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲27.7(同▲10.5)、製造業▲21.7(同▲12.0)である。

平成23年11月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成23年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12月~2月(11月~1月)
全産業	▲20.8	▲19.0	▲17.7	▲23.1	▲16.0	▲28.8	▲17.3(▲9.8)
建設	▲8.8	▲3.4	±0.0	▲3.3	△3.5	▲11.5	±0.0(±0.0)
製造	▲15.3	▲20.0	▲33.3	▲39.1	▲32.0	▲34.7	▲21.7(▲12.0)
卸・小売	▲31.5	▲32.4	▲32.4	▲39.3	▲18.4	▲36.1	▲27.7(▲10.5)
サービス	▲27.2	▲15.7	±0.0	▲9.0	▲19.0	▲31.5	▲15.7(▲19.0)



【平成23年11月の採算についての状況】

○ 11月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲40.3(前月水準▲34.8)となり、マイナス幅が▲5.5ポイント拡大した。

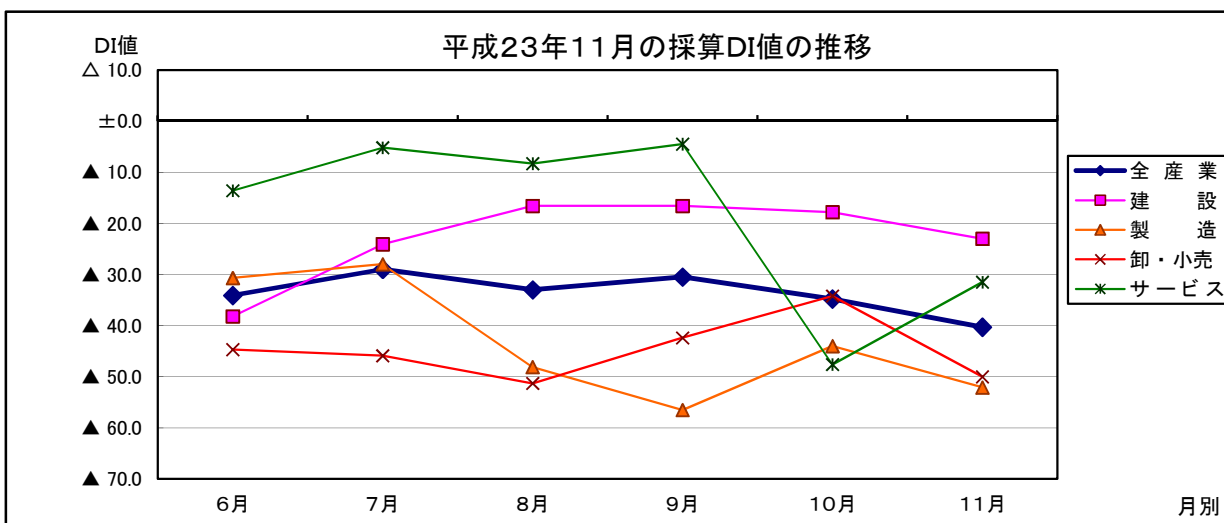
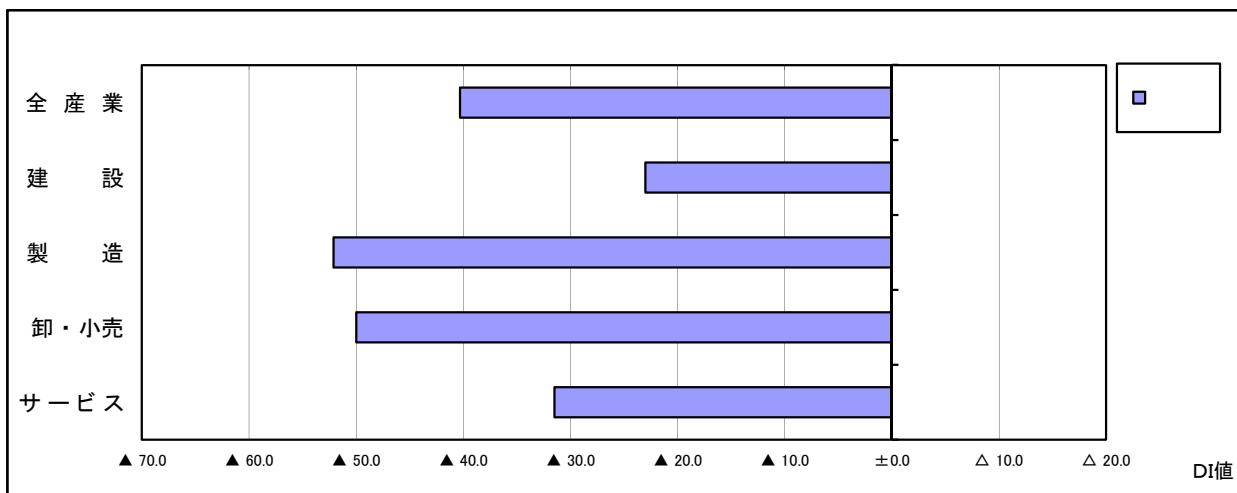
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、サービス業▲31.5(同▲47.6)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲50.0(同▲34.2)、製造業▲52.1(同▲44.0)、建設業▲23.0(同▲17.8)である。

○ 向こう3ヶ月(12月から2月)の先行き見通しについては、全産業では、▲21.1(前月水準▲19.6)となり、マイナス幅が▲1.5ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲26.3(同▲38.0)、製造業▲21.7(同▲24.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲22.2(同▲13.1)、建設業▲15.3(同▲10.7)である。

平成23年11月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成23年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12月~2月(11月~1月)
全産業	▲34.1	▲29.0	▲33.0	▲30.5	▲34.8	▲40.3	▲21.1(▲19.6)
建設	▲38.2	▲24.1	▲16.6	▲16.6	▲17.8	▲23.0	▲15.3(▲10.7)
製造	▲30.7	▲28.0	▲48.1	▲56.5	▲44.0	▲52.1	▲21.7(▲24.0)
卸・小売	▲44.7	▲45.9	▲51.3	▲42.4	▲34.2	▲50.0	▲22.2(▲13.1)
サービス	▲13.6	▲5.2	▲8.3	▲4.5	▲47.6	▲31.5	▲26.3(▲38.0)



【平成23年11月の仕入単価についての状況】

○ 11月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲28.8(前月水準▲34.8)となり、マイナス幅が6.0ポイント縮小した。

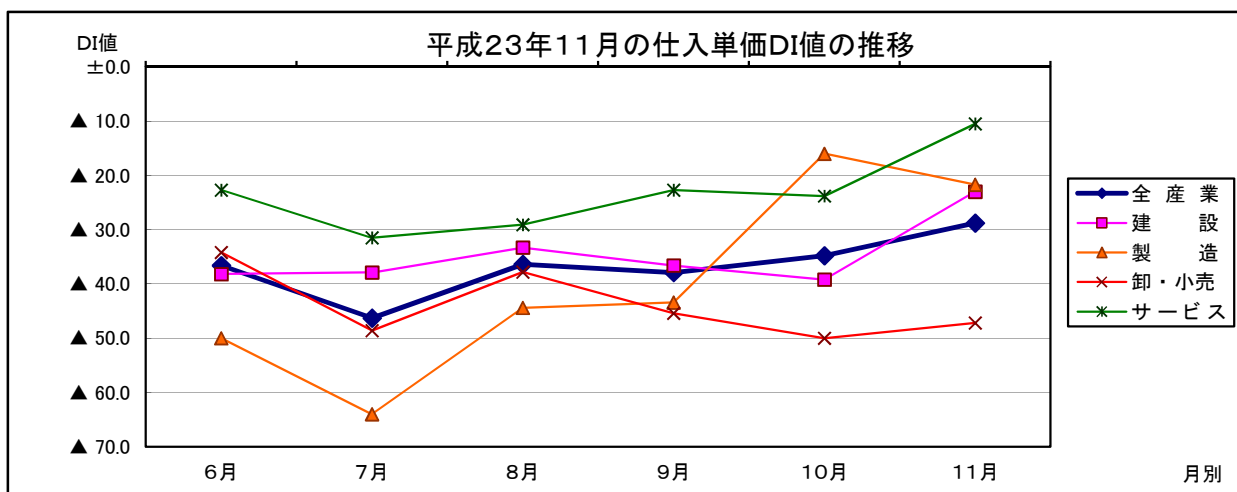
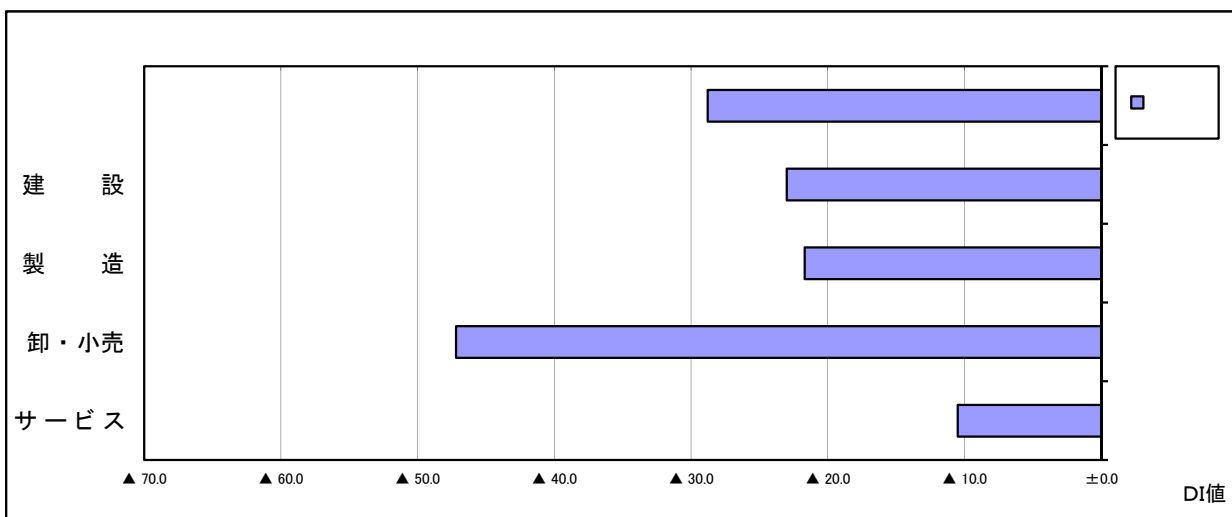
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、建設業▲23.0(同▲39.2)、サービス業▲10.5(同▲23.8)、卸小売業▲47.2(同▲50.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、製造業▲21.7(同▲16.0)である。

○ 向こう3ヶ月(12月から2月)の先行き見通しについては、全産業では、▲21.1(前月水準▲27.6)となり、マイナス幅が6.5ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲4.3(同▲20.0)、卸小売業▲36.1(同▲44.7)、建設業▲23.0(同▲28.5)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業▲10.5(同▲4.7)である。

平成23年11月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成23年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12月~2月(11月~1月)
全産業	▲36.6	▲46.3	▲36.4	▲37.9	▲34.8	▲28.8	▲21.1(▲27.6)
建設	▲38.2	▲37.9	▲33.3	▲36.6	▲39.2	▲23.0	▲23.0(▲28.5)
製造	▲50.0	▲64.0	▲44.4	▲43.4	▲16.0	▲21.7	▲4.3(▲20.0)
卸・小売	▲34.2	▲48.6	▲37.8	▲45.4	▲50.0	▲47.2	▲36.1(▲44.7)
サービス	▲22.7	▲31.5	▲29.1	▲22.7	▲23.8	▲10.5	▲10.5(▲4.7)



【平成23年11月の従業員についての状況】

○ 11月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲1.9(前月水準▲5.3)となり、マイナス幅が3.4ポイント縮小した。

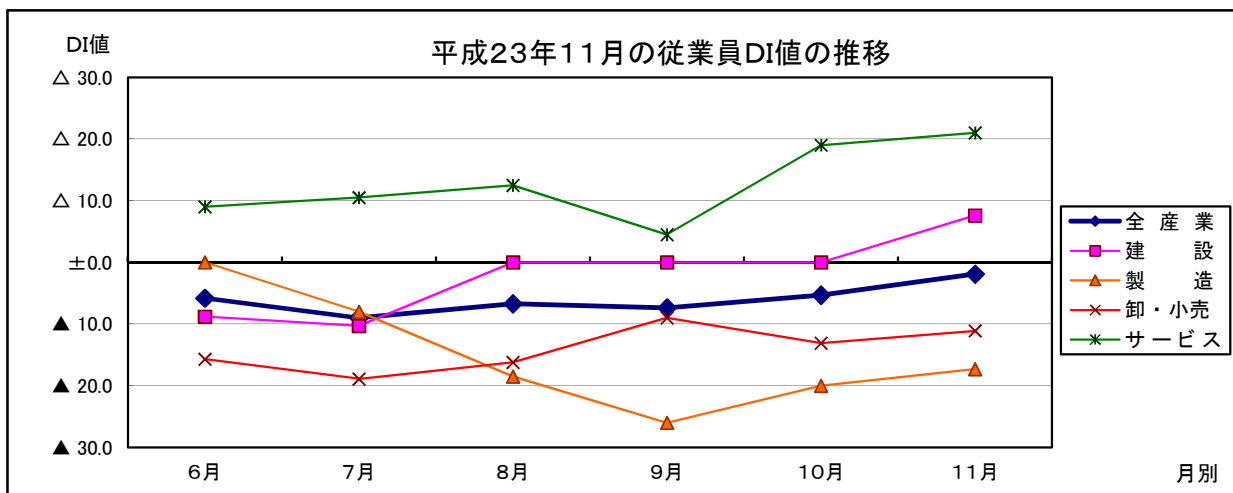
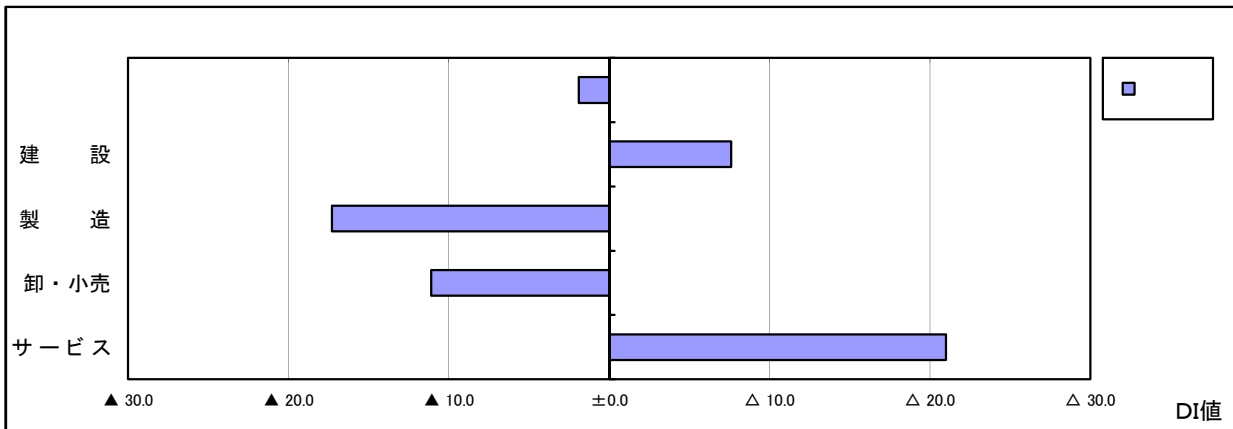
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業7.6(同±0.0)、サービス業21.0(同19.0)である。マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業▲17.3(同▲20.0)、卸小売業▲11.1(同▲13.1)である。

○ 向こう3ヶ月(12月から2月)の先行き見通しについては、全産業では、▲3.8(前月水準1.7)となり、マイナス方向へ▲5.5ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業15.7(同28.5)、建設業±0.0(同7.1)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲5.5(同▲2.6)、製造業▲21.7(同▲20.0)である。

平成23年11月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成23年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12月~2月(11月~1月)
全産業	▲5.8	▲9.0	▲6.7	▲7.4	▲5.3	▲1.9	▲3.8(△1.7)
建設	▲8.8	▲10.3	±0.0	±0.0	±0.0	△7.6	±0.0(△7.1)
製造	±0.0	▲8.0	▲18.5	▲26.0	▲20.0	▲17.3	▲21.7(▲20.0)
卸・小売	▲15.7	▲18.9	▲16.2	▲9.0	▲13.1	▲11.1	▲5.5(▲2.6)
サービス	△9.0	△10.5	△12.5	△4.5	△19.0	△21.0	△15.7(△28.5)



【平成23年11月の資金繰りについての状況】

○ 11月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲12.5(前月水準▲16.9)となり、マイナス幅が4.4ポイント縮小した。

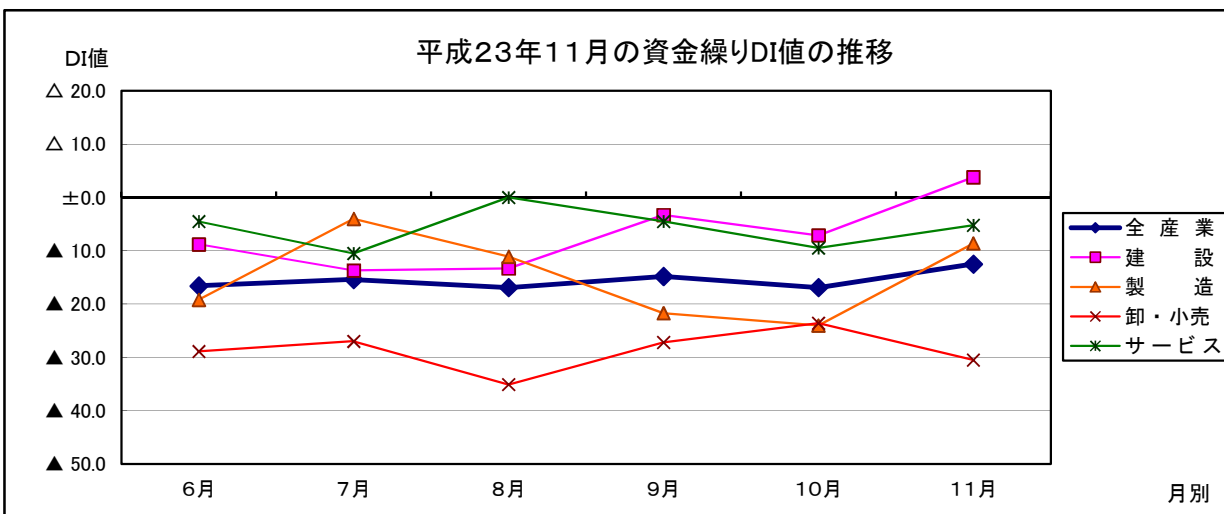
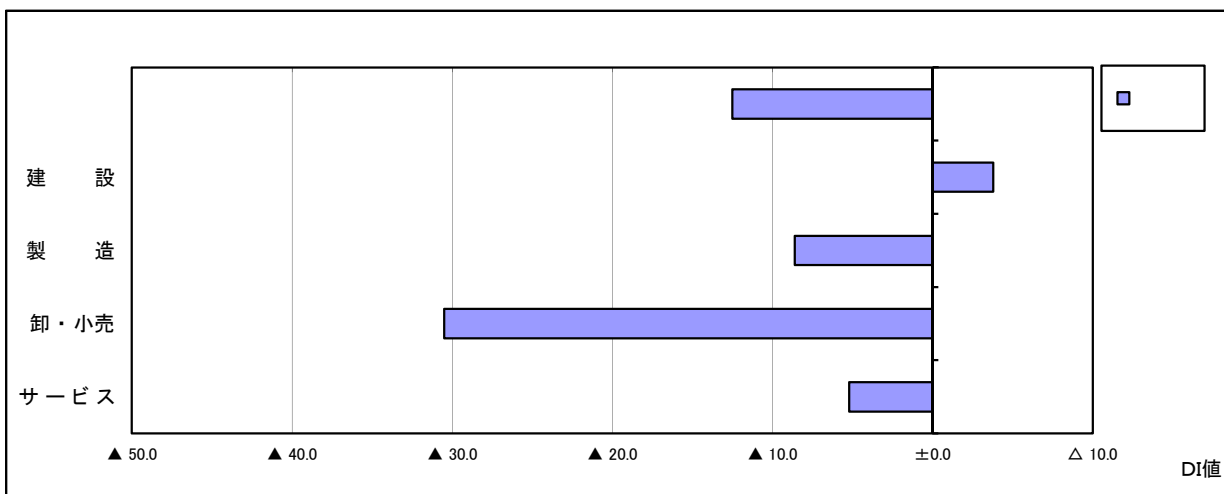
業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、建設業3.8(同▲7.1)である。マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業▲8.6(同▲24.0)、サービス業▲5.2(同▲9.5)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲30.5(同▲23.6)である。

○ 向こう3ヶ月(12月から2月)の先行き見通しについては、全産業では、▲14.4(前月水準▲17.8)となり、マイナス幅が3.4ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業±0.0(同▲7.1)、卸小売業▲16.6(同▲23.6)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲26.0(同▲24.0)、サービス業▲15.7(同▲14.2)である。

平成23年11月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成23年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	先行き見通し 12月~2月(11月~1月)
全産業	▲16.6	▲15.4	▲16.9	▲14.8	▲16.9	▲12.5	▲14.4(▲17.8)
建設	▲8.8	▲13.7	▲13.3	▲3.3	▲7.1	△3.8	±0.0(▲7.1)
製造	▲19.2	▲4.0	▲11.1	▲21.7	▲24.0	▲8.6	▲26.0(▲24.0)
卸・小売	▲28.9	▲27.0	▲35.1	▲27.2	▲23.6	▲30.5	▲16.6(▲23.6)
サービス	▲4.5	▲10.5	±0.0	▲4.5	▲9.5	▲5.2	▲15.7(▲14.2)



【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 28.8	▲ 17.3	▲ 40.3	▲ 21.1	▲ 28.8	▲ 21.1	▲ 1.9	▲ 3.8
建設	▲ 11.5	±0.0	▲ 23.0	▲ 15.3	▲ 23.0	▲ 23.0	△ 7.6	±0.0
製造	▲ 34.7	▲ 21.7	▲ 52.1	▲ 21.7	▲ 21.7	▲ 4.3	▲ 17.3	▲ 21.7
卸・小売	▲ 36.1	▲ 27.7	▲ 50.0	▲ 22.2	▲ 47.2	▲ 36.1	▲ 11.1	▲ 5.5
サービス	▲ 31.5	▲ 15.7	▲ 31.5	▲ 26.3	▲ 10.5	▲ 10.5	△ 21.0	△ 15.7

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 30.7	▲ 20.1	▲ 12.5	▲ 14.4
建設	▲ 7.6	▲ 7.6	△ 3.8	±0.0
製造	▲ 39.1	▲ 17.3	▲ 8.6	▲ 26.0
卸・小売	▲ 44.4	▲ 33.3	▲ 30.5	▲ 16.6
サービス	▲ 26.3	▲ 15.7	▲ 5.2	▲ 15.7

【平成23年11月の業種別業界内トピックス】

産業別	概況		業種
建設	住宅エコポイントの復活を機に断熱リフォームの提案強化をすすめます。	住宅エコポイント リフォーム	一般土木建築工事業
	年末に向かっての明るい話題が無い。新築改修ともに物件が少なく低価格の工事でのびのび。原材料の値上がりがあり採算は苦しい	工事減少 低価格 原材料値上がり 採算圧迫	電気工事業
	マスコミで最近頻繁に取り上げられている原発事故関連で、放射能の除染関係の依頼が増えてきている。今後、どのように対応していくか関係各所と協議中。	原発事故の影響 除染	塗装工事業
	取引先も採算ベースで利益減少となっているようで単価を下げるよう要望されているが材料は高騰している。当然同業者は採算が合わず売上減少も仕方がないことと取引を止める業者も出ている。その結果倒産となった同業者もいる。震災の影響で建築工事は増えているが採算はどれも赤字ぎりぎりとなり、余分な経費出費を避けやっとなんか資金をねん出させている状況である。直に円高の影響は出ていないがどこが倒産してもおかしくない状況が続いている。数ヶ月間で会社整理倒産となった身近な業者	下請け単価 原材料値上がり 採算圧迫 震災の影響 円高	その他の職別工事業
	震災、ホットスポットの影響による住宅建設の件数減少	原発事故の影響 住宅建築減少	ガス業
	売上高は減少し下請けに出さず自社で施工することを第一に考えて受注するがそろそろ限界かも	売上減少	土木工事業
	年末に向けて工事の注文も増え感謝です。大掃除のお手伝いができる畳屋を目指します	受注増加 大掃除	内装工事業
製造	原材料価格は一時より下がってきたが、輸出関連の採算が合わない。	原材料値下がり 輸出不採算	ゴムベルト・ゴムホース・工業用ゴム製品製造業
	欧州財政金融の悪化、米国の景気減退、原油高等のリスクにより世界的不景気の情報が多く、改めて来年の事業計画は危機意識の上で立てる必要性を強く感じています	EU経済不安 米国景気減退 危機意識	金属素形材製品製造業
	国内での受注はかなり厳しい状況である。海外進出に取り組む方向	受注困難 海外進出	電子部品・デバイス製造業
	景気が改善しない。顕著な変化は見えてこない。レイソルが優勝すれば経済効果も大きいと思いますのでぜひ勝ってほしいものです。	景気悪化 レイソル優勝	その他の機械・同部品製造業 印刷業
	夏以降に順調に伸びてきた売上も11月はなぜか急降下し、毎週金曜日に休業実施するまでに受注が落ち込んでいる。要因は簡単には特定できないが、震災と円高による生産の海外への移管が大きなものであることは間違いないだろう。12月についても同様に不透明な状況で、注文から納品までの時間が短いことが多く、計画生産で3カ月先まで受注できているといったようなこれまでの事業形態は今後は望めなくなるのだろうか？最終製品を生産するメーカーからの生産情報がまるでなく、設備や人員をどのように扱うかがもっとも困難な課題になるであろうことは間違いない。	売上減少 休業日 震災と円高 生産の海外移管 先行き不透明 生産情報	その他の金属製品製造業
	売上は多少伸びているがヨーロッパの経済不安、円高による国内製造業の空洞化がささやかれ先行きが不透明である	EU経済不安 円高 製造業空洞化 先行き不透明	一般産業用機械・装置製造業
	欧米の財政不安、タイの水害、円高の継続等がかかわり、先行きの不透明感が増しているため、売上高への影響を懸念する。	EU経済不安 タイの水害 円高 先行き不透明	ガラス・同製品製造業
	材料価格は下がってきたが仕事の見通しが無い	原材料値下がり 先行き不透明	建築用・建設用金属製品製造業
昨対比で11月は売り上げアップしているが、12月、1月の見通しは良くない。材料費高騰の影響で利益圧迫している。	売上増加 先行き不透明 原材料値上がり 利益圧迫	紙製容器製造業	

【平成23年11月の業種別業界内トピックス】

卸小売	<p>婦人服業界ではハイグレード品が若干の伸びがみられるが客数の落ち込みが激しい。そのため、売上高の落ち込みとなっている。カジュアル系のコートはここ数年売れていたため、頭打ちの状況。1月になって売れ出す事が多く、全くのバーゲンアイテム化している。冬物セールは12月上旬～中旬には入る事が多くなりそう</p>	<p>来客数減少 売上減少 冬物セール</p>	<p>婦人・子供服小売業</p>
	<p>秋物衣料が不振。冬物も出足が不調だが、PB商品で機能で魅力を打ち出せている商品は好調</p>	<p>秋物衣料不振 冬物不調 PB商品好調</p>	<p>その他の各種商品小売業</p>
	<p>11月は好調に推移。お歳暮も会期短縮するものの前年をオーバーし売上に寄与している</p>	<p>お歳暮 売上増加</p>	<p>百貨店</p>
	<p>11月度は、10/26から「レディス アウター&ブーツフェア」を開催、また11/3にはクリスマスイルミネーションを点灯させ季節感を演出したものの、気温がなかなか下がらず顧客の購買意欲が高まらなかったことから売上高は低調な推移となった。16日からは館内装飾を全館一斉にクリスマス装飾にし、クリスマスムードを高めたものの、顧客の慎重な購買行動もみられることから、実売期である重衣料やブーツ、季節商材などの動きが鈍く、後半に掛けても大きな盛り返しは見られなかった。</p>	<p>気候の影響 購買意欲不振 売上低調 クリスマス商戦 季節商材</p>	<p>その他の各種商品小売業</p>
	<p>民主党はTPPの交渉に入るようAPECで約束をしてしまった。もしもTPPが日本で行われることになったら大変なことになってしまうと思います。柏商工会議所もTPPに関するアンケートなりを企業に行っていたきたいと思います。ぜひともお願いいたします。</p>	<p>TPP</p>	<p>各種食料品小売業</p>
	<p>依然売上は低迷を続けクリスマス需要もどうなるか不透明な状況です</p>	<p>売上低迷 クリスマス需要 先行き不透明</p>	<p>菓子・パン小売業</p>
	<p>仕入単価の上昇は売上減少が低いのに東日本大震災での影響で物資の流通が悪く仕入れ値が高い。高齢者が多い現代で食生活も変わってきたときに食品小売業も大変な時代となってきた。小売店や商店会の経営等も大分努力しているが明るい見通しがくるまで頑張るしかない</p>	<p>単価上昇 売上減少 震災の影響 流通悪化 食生活の変化</p>	<p>食肉小売業</p>
	<p>年末に向けギフト年賀状印刷やクリスマスケーキ、おせち等の予約に取り組み売上増につながるよう頑張っている</p>	<p>年末商戦</p>	<p>その他の各種商品小売業</p>
	<p>11月は去年並みとはいかず風評被害はまだ続いているようです。寒くなり外に出る事も少なくなる。肉の単価は平年並みですが多少足りなくなる部位も少しずつ出てきているようですが、これからの忘年会シーズンに期待します</p>	<p>風評被害 忘年会シーズン</p>	<p>農畜産物・水産物卸売業</p>
	<p>昨今の青果物卸の取り引き状態は原発事故の影響は大きいと思われるますがホットスポット以外にも消費者の食に対する変化や、景気低迷もあり、何が原因で減少しているとは言えない。いまだ原発の収束が無い限り風評被害は続きますが食べる事で安心安全の証拠と報道していき取引の活性化にしていきたい。現在の取引は野菜の主要品目で半値以下が多く、果実ではリンゴが高値で全体的に減少しています</p>	<p>原発事故の影響 取引減少 ホットスポット 景気低迷 食の安心安全 野菜単価半値 果実高値</p>	<p>食料・飲料卸売業</p>
<p>仕入れ値は高水準のままで売上高減少の傾向が続いている。経営環境は悪化する一方</p>	<p>原材料値上がり 売上減少 経営悪化</p>	<p>塗料卸売業</p>	
<p>新規物件が少ないところに集中するため、販売価格が下降気味</p>	<p>販売価格下降</p>	<p>一般機械器具卸売業</p>	
<p>市内の工場、倉庫業等、設備投資の話にはなるが、見積もりになるとほとんど立ち消えになる。景気が中小企業まで回復するにはまだ相当時間を要すると考えられる。当社は向こう3ヵ月若干業況が好転すると考えておりますが、ほとんどが柏市外、県外のお客様です</p>	<p>景気停滞 市外顧客</p>	<p>家庭用機械器具小売業</p>	

【平成23年11月の業種別業界内トピックス】

サービス	<p>宿泊は、震災後開催されていなかったスポーツ大会が開催され、スポーツ関係の団体及びINETの販売客数が増え昨対で大きく稼働を上げる、一室単価は下がったものの稼働でカバーし予算、昨対共に売上げを達成。宴会は企業の会議、セミナー、宴会(祝宴)等が減少し昨対、予算共に大きく落とす。未だ粕の製造業の厳しさを感じる。原発の影響で国産牛肉の部位でヒレ肉の入荷が厳しくなっている事や冬を迎えるにあたりガソリン、重油、等の値上がり気になる。野菜及びその他の食材の仕入れ12月のボーナスが出て、お客の購買意欲が上がり忙しくなるのをまっています</p>	<p>イベント ネット販売増加 稼働増加 単価下降 法人減少 原発事故の影響 原材料値上がり ボーナス 購買意欲</p>	<p>ホテル 旅館業</p>
	<p>スタッフ採用をかけても、反響が薄く、なかなか決まらない状況。忙しい年末に向け、人員確保と教育期間がままならない。レストランや宴会等、個人消費が増えている傾向にある。</p>	<p>人材採用 個人利用増加</p>	<p>ホテル</p>
	<p>年末、クリスマス商品の予約は昨年並み。来年度分の予約なども順調でここにきて冬物も動く。全体的には昨年並みの売上か。</p>	<p>クリスマス商戦 冬物好調</p>	<p>その他の飲食料点小売業</p>
	<p>この年末年始は海外旅行は円高の影響もあって前年同期比10%増ほど。国内旅行も東北を除く全方面で前年を超えるまでになってきた。しかし今後の景況感が法人旅行需要にどう影響してくるかは未知数。</p>	<p>円高 国内外旅行増加 法人利用不透明</p>	<p>旅行業</p>
	<p>放射能の風評被害が出ています。若年者の住宅購入意欲が低くなっており、特に顕著です</p>	<p>原発事故の影響 風評被害 住宅購入減少</p>	<p>不動産管理業</p>
	<p>貸しビルもしておりますが衣料関係のテナントの業績がよいようです。通常の景気にもどろつつあると感じます</p>	<p>テナント好調</p>	<p>不動産賃貸業</p>
	<p>1年以内にTX沿線区画で事業の計画がありますが先行き不透明な部分もあるので臨機応変に事業投資を心がけて行きたい</p>	<p>先行き不透明 事業投資</p>	<p>不動産賃貸・管理業</p>
	<p>相変わらずの状態続く。季節も冬到来で容赦ない寒さで身も心も凍る思い、震災以降から続く種まきも芽が出る前に土壌も凍り積むことが出来ず、現況から固定費を確保するには大変困難。この冬は、辛抱する年と言いつけて……。</p>	<p>業況停滞 固定費</p>	<p>ソフトウェア業</p>

◎先行き不透明

- ・ 売上は多少伸びているがヨーロッパの経済不安、円高による国内製造業の空洞化がささやかれ先行きが不透明である 一般産業用機械・装置製造業
- ・ 欧米の財政不安、タイの水害、円高の継続等がかかわり、先行きの不透明感が増しているため、売上高への影響を懸念する ガラス・同製品製造業
- ・ 材料価格は下がってきたが仕事の見通しがいい 建築用・建設用金属製品製造業
- ・ 依然売上は低迷を続けクリスマス需要もどうなるか不透明な状況です 菓子・パン小売業
- ・ 1年以内にTX沿線区画で事業の計画がありますが先行き不透明な部分もあるので臨機応変に事業投資を心がけていきたい 不動産賃貸・管理業

◎売上減少

- ・ 売上高は減少し下請けに出さず自社で施工することを第一に考えて受注するがそろそろ限界かも 土木工事業
- ・ 夏以降に順調に伸びてきた売上も11月はなぜか急降下し、毎週金曜に休業実施するまでに受注が落ち込んでいる。要因は簡単には特定できないが、震災と円高による生産の海外への移管が大きなものであることは間違いなし その他の金属製品製造業
- ・ 婦人服業界ではハイグレード品が若干の伸びがみられるが客数の落ち込みが激しい。そのため、売上高の落ち込みとなっている。カジュアル系のコートはここ数年売れていたため、頭打ちの状況。 婦人・子供服小売業
- ・ 依然売上は低迷を続けクリスマス需要もどうなるか不透明な状況です 菓子・パン小売業
- ・ 仕入単価の上昇は売上減少が低いのに東日本大震災での影響で物資の流通が悪く仕入れ値が高い。高齢者が多い現代で食生活も変わってきたときに食品小売業も大変な時代となってきた。小売店や商店会の経営等も大分努力しているが明るい見通しがくるまで頑張るしかない 食肉小売業

◎原材料値上がり

- ・ 年末に向かっての明るい話題が無い。新築改修ともに物件が少なく低価格の工事でのびのび。原材料の値上がりがあり採算は苦しい 電気工事業
- ・ 取引先も採算ベースで利益減少となっているようで単価を下げるよう要望されているが材料は高騰している。当然同業者は採算が合わず売上減少も仕方がないことと取引を止める業者も出ている。その結果倒産となった同業者もいる。 その他の職別工事業
- ・ 昨対比で11月は売り上げアップしているが、12月、1月の見通しは良くない。材料費高騰の影響で利益圧迫している。 紙製容器製造業
- ・ 仕入れ値は高水準のまま売上高減少の傾向が続いている。経営環境は悪化する一方 塗料卸売業
- ・ 原発の影響で国産牛肉の部位でヒレ肉の入荷が厳しくなっている事や冬を迎えるにあたりガソリン、重油、等の値上がりが気になる。野菜及びその他の食材の仕入れ価格は安定。 ホテル











平成23年11月のCCI-LOBOとの比較











- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲30.7に対し、「CCI-LOBO」が▲35.5で、柏の方がマイナス幅が4.8ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・サービス業で、いずれも10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は製造業・卸小売業。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲28.8に対し、「CCI-LOBO」が▲28.3で、柏の方がマイナス幅が0.5ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・卸小売業・サービス業で、建設業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は製造業で、10ポイント以上悪い。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲40.3に対し、「CCI-LOBO」が▲31.5で、柏のほうマイナス幅が8.8ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・サービス業で、建設業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は製造業・卸小売業で、いずれも10ポイント以上悪い。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲28.8に対し、「CCI-LOBO」が▲25.8で、柏の方がマイナス幅が3.0ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・製造業・サービス業で、製造業・サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業で10ポイント以上悪い。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲1.9に対し、「CCI-LOBO」が▲3.4で、柏の方がマイナス幅が1.5ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・サービス業で、サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業・卸小売業で、製造業は10ポイント以上悪い。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲12.5に対し、「CCI-LOBO」が▲21.2で、柏の方がマイナス幅が8.7ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・サービス業・製造業で、建設業・サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は卸小売業。











平成23年11月の柏の景気天気図











柏の景気情報と全国CCI LOBOとの比較











景気天気図					
	特に好調 DI 50	好調 50>DI 25	まあまあ 25>DI 0	不振 0>DI 25	極めて不振 25>DI











業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 30.7	 7.6	 39.1	 44.4	 26.3
CCI LOBO	 35.5	 30.1	 29.2	 44.1	 38.0


売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 28.8	 11.5	 34.7	 36.1	 31.5
CCI LOBO	 28.3	 24.1	 13.0	 41.8	 35.7


採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 40.3	 23.0	 52.1	 50.0	 31.5
CCI LOBO	 31.5	 35.0	 24.2	 34.2	 35.8

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 28.8	 23.0	 21.7	 47.2	 10.5
CCI LOBO	 25.8	 31.4	 33.8	 15.2	 25.1

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 1.9	 7.6	 17.3	 11.1	 21.0
CCI LOBO	 3.4	 2.2	 6.8	 1.9	 1.2

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 12.5	 3.8	 8.6	 30.5	 5.2
CCI LOBO	 21.2	 23.3	 15.5	 23.0	 24.3

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上良い項目

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上悪い項目

CCI - LOBO

商工会議所早期景気観測(11月速報)

調査期間：平成23年11月16日～22日

調査対象：全国の414商工会議所が2846業種組合等にヒアリング調査を実施

全国の業況

業況DIは、超円高やタイ洪水が影響し、回復の勢いが弱まる

11月の全産業合計の業況DIは、35.5(前月比1.2ポイント)と、2カ月ぶりにマイナス幅が拡大。復旧・復興需要が続く一方で、超円高やタイ洪水などにより、製造業を中心に経営環境が悪化。先月まで続いていた回復の勢いが弱まりつつある。

先行きについては、先行き見通しDIが31.5と、今月から+4.0ポイント改善する見通し。年末・年始における消費・宿泊需要の高まりへの期待感が出ている。第三次補正予算の執行に伴う復興需要の本格化も好材料であるが、建設業では、人手不足による賃金の上昇に伴う、採算悪化への不安もみられる。また、超円高に伴う輸出の減少や取引先による生産・販売拠点の海外移転の加速に加え、幅広い業種においてタイ洪水による今後の影響を懸念する声も多い。

産業別にみると、業況DIのマイナス幅は、卸売業、サ

ービス業はマイナス幅が縮小したものの、他の3業種は拡大した。

各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業】「型枠大工、鉄筋工など専門業者が被災地の復旧・復興工事に流れ、地元の建設労働者が不足しているため、賃金が上昇し、採算が悪化」(一般工事業)、「住宅エコポイント制度の再開による住宅着工件数の増加を期待」(建築工事業)、「12月からコンクリートの価格が1トンあたり1000円値上がりするため、採算の悪化を懸念」(土木工事業)

【製造業】「急激な円高により、ドル建て取引を行っている香港向けの輸出で2億円の為替差損が発生」(計量器・測定器製造業)、「取引先が生産拠点を中国に移すため、来年1月から受注がなくなる。月300〜400万円程度売上が減少する見通し」(自動車部品製造業)、「生活再建需要により、主力商品である羽毛布団の受注が増加」(織物外衣製造業)

【卸売業】「今月は比較的天候に恵まれ、出荷・消費が活発だったことから、売上が増加」(花卉卸売業)、「金の価格が短期間で大幅に変動するため、取引先が発注を最小限の数量に抑えている」(ジュエリー製品卸売業)、「円高の影響で、取引先が生産拠点の海外移転と原材料の現地調達を進めており、経営が厳しい」(繊維品卸売業)

【小売業】「11月になっても気温が高めに推移しており、防寒商品や冬衣料の売上が伸び悩んでいる」(総合スーパー)、「福島県産の米から基準を超える放射能物質が検出されたため、売上の影響が心配」(米穀類小売業)、「円高により輸入商品の仕入価格が低下しているため、円高還元セールを実施。消費者の反応はよく、売上が好調」(百貨店)

【サービス業】「旅行控えで落ち込んでいた国内旅行客の宿泊が徐々に回復傾向にある」(旅館)、「忘年会シーズンにおける飲食・宿泊需要に期待」(旅館)、「取引先が大規模システムの開発拠点の海外移転を加速させて

おり、自社の受注が減少」(ソフトウェア業)

全国・産業別業況DIの推移

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
6月	▲51.4	▲52.7	▲40.3	▲59.8	▲51.0	▲59.9
7月	▲40.0	▲45.8	▲32.9	▲47.3	▲35.1	▲45.9
8月	▲36.5	▲48.4	▲28.1	▲35.4	▲38.9	▲35.5
9月	▲39.6	▲38.2	▲33.5	▲34.7	▲45.8	▲42.8
10月	▲34.3	▲30.7	▲26.2	▲38.8	▲37.6	▲39.4
11月	▲35.5	▲30.1	▲29.2	▲32.9	▲44.1	▲38.0
見通し	▲31.5	▲34.7	▲30.2	▲27.7	▲33.7	▲30.5

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI